

子牛の経口薬投与方法

夏が近づいた今には少し季節外れかもしれませんが、冬になると子牛の下痢に悩まされ、1頭下痢になると次々に他の子牛も下痢になり、管理する人も子牛もグッタリ：なんて話をよく耳にします。そんな診療中に農家さんと話をしていると「毎日の点滴も大変だけど、飲み薬飲ませるのも面倒でね〜」と言われることがあります。初乳をたっぷり飲ませ、清潔で風通しの良い場所で個別飼いし、下痢を予防するのが一番ですが、なかなかそう上手くはいかないですよ。ね。下痢になるとまずは飲み薬を与えることが多いと思います。

飲み薬の投与方法は、ミルクに混ぜたり団子にして食べさせたりと、農家さんによって様々だと思えます。しかし、ミルクに混ぜてしまうと生菌剤（ビオスリー、宮入菌等）以外では薬の有効成分を発揮しきれないものもあり、せっかくもらった薬を無駄にしてしまう様な投与方法はもったいない！とはいえ、団子にする子牛はすぐに吐き出し、上手く食べてもらえず、私自身投薬に苦労した経験があります。少しでも面倒が減って、なおかつ誤って薬が気管に入るのを防いで投薬できないものかと考えたのが『パナカリッチ』です。

〈材 料〉	
スーパーネッカリッチ（炭）	大きじ2
ボビノン	大きじ1
生菌剤 （ビオスリー、宮入菌等）	大きじ1
水	適量（20ml程度）
パナカヤク（豚用飼料） もしくはMMローション	小さじ1/2程度



写真提供：厚岸診療所 藤田獣医師

いものもあり、せっかくもらった薬を無駄にしてしまう様な投与方法はもったいない！とはいえ、団子にする子牛はすぐに吐き出し、上手く食べてもらえず、私自身投薬に苦労した経験があります。少しでも面倒が減って、なおかつ誤って薬が気管に入るのを防いで投薬できないものかと考えたのが『パナカリッチ』です。

1. 哺乳する前にまずは子牛の口に指を入れ、指を吸うか哺乳欲を確認。
 2. 口角に指をかけて口を開き、シリンジを口のやや奥の方まで押し込むと同時に、ゆっくりシリンジを押して投薬していきます。
 3. 少し時間を空けてから哺乳します。（例えば最初に投薬、全ての子牛に投薬が終わった後で哺乳する）主に対象とするのは生後1ヵ月位までの子牛で、下痢の初期。飲みはイイけど下痢している子牛です。口に手を入れてみて冷たい子牛、異常に熱い子牛、指に吸い付かない子牛は近くの共済組合に診療を依頼して下さい。
- 次は標茶診療所の木村獣医師にパナカリッチします。
（浜中家畜診療所診療課 岩佐 明代）